

被曝量と発病率

ホーム	電磁波とは？	電磁波は遮断できるか？	マイクロ波とは？	電磁波から身
紫外線	住宅環境	盗聴・盗撮の実態	測定器・探知器	電磁波過

送電線の電磁波被害

高圧送電線鉄塔付近の住民に「ガン、白血病」が多いことは世界の調査研究で明らかです。科学技術庁も99年より3ヶ年計画で「送電線と小児白血病の因果関係」を調査する国内初の疫学調査を開始しました。

国内での「高圧送電線とガン・白血病」の関連記事は [こちら](#)

- WHO (世界保健機関)の下部機関であるIARC (国際がん研究機関)は2001年6月27日にフランスのリオンで、**50～60ヘルツの極低周波磁場**は**発がんランク [2B]**の**「人体への発がん可能性有り」**を全会一致で正式にランク付けをする画期的な発表を行った。この発表を受けて、WHOは各国政府や電力業界に「予防的な対策」として、
(1) 住民に十分な情報を提供する (2) 被曝を減らす安全で低コストの対策
(3) 健康リスクの研究の推進などを講じるよう伝えた。
IARCの見解は、送電線、家庭内配線や電気器具から照射されるELF(極低周波)は**0.4μT(マイクロテスラ=4ミリガウス)**以上の**磁場**で小児白血病がおよそ2倍との一定した統計上の関係がみられるというものです。
IARCは「発がん性の有無を認定する機関」で有り、がん以外の疾病との因果関係を決定する機関ではありませんが、IARCの決定は今後の「電磁波の人体への影響」に関する論議に、一石を投じる事になるのは間違いありません。
更に、極低周波磁場の有害性は、今後 高周波やマイクロ波の有害性認定に大きな影響力を及ぼすものと考えられます。

IARCが規定した発がんランク表

ランク	分類	対象物質
1	発がん性有り	ダイオキシン、アスベスト、ベンゼン、C型肝炎ウイルス、塩化ビニール、ラドンなど87種類
2A	発がん可能性が高い	紫外線、PCB、ホルムアルデヒド、ベンゾピレンなど63種類
2B	発がんの可能性有り	DDT、クロロフォルム、極低周波電磁波、PBB、鉛、4塩化炭素など236種類
3	発がん性有りとは分類できない	炭塵、水銀、キシレン、フェノール、蛍光、サッカリンなど483種類
4	非発がんの可能性有り	カプロラクタム(ナイロンの原料)のみ

このワーキングメンバーは、下記10ヵ国、21名の専門家によって構成されています。

ラリー・アンダーソン	米国	バットル太平洋北西国立研究所	ウィリアム・ベイリー
カール・ブラックマン	米国	EPA (環境保護庁)	ニック・デイ
ヴァインセント・デルピッツォ	米国	カリフォルニアEPA計画	パスカル・ゲネル
エリザベス・ハッチ	米国	ボストン大学	ユッカ・ユーテライネン
リーカ・カイフェッツ	米国	EPRI (電力研究所)	アブラハム・リボフ
ディビッド・マコーミック	米国	IIT調査研究所	マイケ・メヴィッツセン
クジュエル・ハンソン・ミルド	スウェーデン	ウメオ大学	宮腰順二
ヨルゲン・オルセン	デンマーク	デンマークがん学会	クリストファー・ポーティエ
リチャード・ソーンダーズ	英国	国立放射線防衛局	ジョアシム・シューツ